

新年挨拶

埼玉県サイクリング協会
会長 浜田卓二郎(参議院議員)

あけましておめでとうございます。

新春のご挨拶を、つつがなく埼玉県サイクリング協会の皆様に申し上げますこと、誠に大慶に存じませぬ。

さて、いよいよ21世紀です。子供の頃に未来の世界として夢に描いてきた社会に、一歩足を踏み入れたわけですが、どうも状況が違います。

産業経済活動で消費するエネルギー量は、地球の自浄可能なレベルをすでに40%もオーバーしているそうで、環境問題は我々が今後生存していくために、政・官・民・また企業や国といった枠を越え、協力して解決しなければならない、重要な課題です。

こうした中、サイクリングは化石燃料を使わず、二酸化炭素も排出しない、まさに21世紀型の、これからますます活発になり、注目を集めるスポーツでしょう。

恒例のツール・ド・秩父の会場、秩父以外にも、埼玉県内、至る所に今だのどかな自然が息づき、ツーリングに適した環境があります。

そうした地域の開発にも、協会会長として皆様のご協力を得ながら取り組んで参りたいと思いますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

終わりに、埼玉県サイクリング協会の益々のご発展と、皆様のツーリングのご安全をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

平成13年 元旦

「サイクルOL大会終わる」

第13回県民総合体育大会サイクルOL(オリエンテーリング)大会が11月12日、上尾橋高等学校を会場として開催された。

9時から受付・車検を済ませた参加者は9時30分の開会式にのぞんだ。原田副理事長から挨拶と実施上の注意があった。一般・シニアが2分間隔で、トリムの部が4分間隔でスタートした。

OLは指定されたポイントを見つけることであるが、まずポイントを地図に正確に記述し、どのコースを走ったら早く目的地に辿りつけるかという、知力と体力の勝負である。勿論地図が読めなくては話にならない。

11時33分頃に最初のゴール者があったが、ポイントと所要時間で順位が決まるので、必ずしも最初のゴール者が1位とはならない。ゴールする度に速報用紙の順番が入れ替わる。

閉会式では成績優秀者に賞状また参加者全員に認定証が渡され解散となった。

大会結果(敬称略)

<一般の部> ポイント数10、距離約42km	<シニアの部> ポイント数10、距離約38km
1位 安達 将芳 1 : 5 4 : 0 5	1位 小池 章之 1 : 5 1 : 4 3
2位 千葉 治 2 : 1 3 : 4 2	2位 前島 康德 2 : 0 4 : 4 8
3位 石谷 嘉男 2 : 1 6 : 2 4	3位 栗原 茂次 2 : 2 6 : 1 4

トリムは規定人数に足しなかったので参考タイム

<トリムの部> ポイント数 6、距離約25km

早川夫妻 2 : 2 9 : 4 0
鷺津・加藤グループ 2 : 3 5 : 1 1

新春サイクリング案内

期 日 平成13年 1月14日(日)
集 合 午前9時(川越市立博物館駐車場)
コース 小江戸川越のんびりサイクリング

指導者研修会の案内

日 時 平成13年 2月18日(日) 9:00~16:00
会 場 埼玉県青少年会館大会議室
その他 サイクリング指導者研修会ですが、
会員の方の参加も歓迎します。
参加希望者は1月20日(土)までに
事務局へ連絡下さい。



【新 着 情 報】

サイクリングインストラクター 3級誕生

新たに次の方々インストラクターとして登録されました。インストラクターは自分だけでサイクリングするのではなく一人でも多くの人に自転車の正しい乗り方についての指導・助言はもとより、さらに進めて自転車の和(輪)づくりに励んでください。

田口安男、岩間康德、高山一也、竹内 清、小山秀晴、峰岸雅樹、和田順雄(敬称略)

インフォメーション

去る10月に開催された国際・チャレンジ・サイクリング<ツール・ド・秩父>の車検にてLEDのライトをつけた方がかなりありましたが、協会行事での車検における「保安部品としてのライト」としては認めませんので、今後注意して下さい。

ライト(前照灯): 10メートル前方がよく見えるか(昭和53年国家公安委員会告示第3号「交通の方法に関する教則」より)

事務局だより

平成13年度の会員受付はJCAから郵送される更新書類を返送し、会費は郵便振替が小為替(指定者は書かない)で納入して下さい。

《編集後記》

20世紀最後の日は何をしていましたか。大掃除に明け暮れた人、テレビに釘づけの人、初詣に出かけた人とそれぞれな時を過ごしたことでしょう。私は毎度のようにニュース放送に追われた。

さて、21世紀はもっと自転車環境が見直される世紀となることを願っている。それにも増して青少年問題の取り組みも急がねばならない。今こそ青少年育成のための拠点づくりをしなければならない時なのに、自治体は巨大な箱ものづくりに走り、その借金の為に大事な拠点を撤去しようとしている。

現有する箱ものをいかに活用するかが手腕の見せどころだ。かっこいいことはだれでもできる。